

会 議 録

会議の名称	平成27年度第2回弘前市第三セクター評価委員会
開催年月日	平成28年1月7日(木)
開始・終了時刻	14時00分 から 16時50分まで
開催場所	岩木総合交流ターミナルほか
議長等の氏名	飯島 裕胤
出席者	委員長 飯島 裕胤 委員 花田 泉 委員 横山 航平 委員長職務代理者 大浦 雅勝
欠席者	なし
第三セクター 所管課職員の 職氏名	観光政策課課長補佐 石澤 淳一
事務局職員の 職氏名	ひろさき未来戦略研究センター副所長 岩崎 隆 ひろさき未来戦略研究センター総括主幹 安田 和人 ひろさき未来戦略研究センター主査 野呂 康司
会議の議題	岩木総合交流ターミナルほか施設見学
会議資料の名称	なし

<p>会議内容 (発言者、発言内容、審議経過、結論等)</p>	<p>1 施設見学</p> <p>○岩木総合交流ターミナル、国民宿舎「いわき荘」、岩木ふれあいセンター (一般財団法人岩木振興公社職員による施設案内)</p> <p>(委員) 耐震工事の後の設備投資の予定は。 (三セク職員) 外装、空調設備がある。そのあとは客室のリニューアルを順次やっていく。 (三セク職員) 今年は前年度比6%くらい上回っている、震災前と比べて98%くらい。震災以降、県外の客の落ち込みが多かったが、戻ってきた。 (委員) 何か取組みをしたのか (三セク職員) 特別なことはないが、季節の便りを出したり、とロコミで広まってきたところがあるのでそれは大事にしている。取組みの遅れてきたのがネットで、ネットの扱いを始めたところであり、ネットの客も増えてきている。エージェントに頼らず、自前で売ることを基本としてきたが、ネットも無視できないところになった。ただ、一部屋一部屋が違うので、ネットで売るにはリスクがある。 (委員) 外国人対応はどう考えているか。 (三セク職員) エージェント回りはしていない。先進的に取り組んでいる旅館と勉強会をしている。個人客の対応を重視している。 (委員) 経費の節減は。 (三セク職員) 当初から取り組んでいる。ごみの問題もあるので客に対し不要なものはださない、必要以上のものはしないことで値段に反映させている。大きな経費は人件費と仕入である。これをいかにするかだが、仕入は地元から買っていて、食材については安いものよりいいものを紹介していくというスタンスでやっている。 (委員) 非常に予約がとりにくいということだが。 (三セク職員) 週末は厳しく、平日は空いているという状況。いかに連泊してもらおうかということ。 (委員) 平日の稼働率は。</p>
-------------------------------------	---

(三セク職員)

46～47%。

(委員)

土日は。

(三セク職員)

ほぼ100%だが、事前のキャンセルもある。

(委員)

キャンセル料の設定は。

(三セク職員)

あるが、常連の客とかからはとれないようなものもある。

○星と森のロマンピア・そうま

(一般財団法人星と森のロマンピア・そうま職員による施設案内)

(委員)

いろいろな施設があるが、施設ごとの採算は。

(三セク職員)

採算性の悪いのはプール、温水プールなので沸かし湯なので経費がかかる。あと、遊具関係の経費を切り離してみても収益性が悪い。

(委員)

収益性の高いのは。

(三セク職員)

宿泊施設、食事、コテージである。

(委員)

宿泊の予約状況は。

(三セク職員)

繁忙期が、年末年始、夏休みだが、白鳥座の稼働率はおよそ80%、ハイシーズンは90%を超える。コテージは最終的に30%くらい、ピークは80%を超える。夏休み以外が低いので懸案としてはコテージの稼働率をどのようにしてあげていくのが来年度以降の収支の方策と考えている。

なかなか改修・リニューアルというのができないので、今ある施設をどう生かしていくか、アイデアをだし、展開していくことを考えている。

(委員)

客層は。

(三セク職員)

比較的年配の夫婦層、続いては30～40代の子連れのファミリー層、ビジネスの利用は低い。

(委員)

地域的には県内、県外はどのような感じか。

(三セク職員)

ホテルはほぼ半分半分。コテージは県内が7割くらい。比較的移動距離が短いかたがたがコテージを使っている。家族連れ

での利用が多いので、今後の展開もそこにターゲットに、どう訴求していくかが大事と考えている。

(委員)

団体、個人でいうと。

(三セク職員)

個人が多い。

(委員)

稼働率がいいのに赤字なのは、どのあたりに問題があるのか。

(三セク職員)

26年度から27年度は黒字の見込である。それまでは、21年度に温泉の不具合があって、半年近く営業ができない状況が続き客足が遠のいたところへ、東日本大震災があり、県外からの客が来なくなってしまった。そこからなかなか上がってこられなかった。

(委員)

だいぶ危機は脱したということか。

(三セク職員)

25年度から上がってきていて、昨年度はホテルの宿泊でいえば10年くらい前までの数字に戻ってきている。

(委員)

それはどんなことをしたのか。

(三セク職員)

温泉が出ていないという状況というのが市内のかたにもずいぶんあったので、温泉を元気にやっているのだというのをまず地元にアピールした。25年6月に市内にチラシを毎戸配布した。そのとき犬と宿泊できるコテージとドックランなどを初めた。その効果か、7月から徐々に増えはじめた。

(委員)

新規とリピートの比率は。

(三セク職員)

リピートが圧倒的に多い。顧客管理がしっかりできていないので、今後は礼状などでつないでいく。

(委員)

近々修繕の予定は。

(三セク職員)

コテージの古い3棟は考えている。その他の9棟もリニューアルしていきたい。その次はホテル棟の客室の改修に加え禁煙の要望があるので完全分煙を考えている。

(委員)

外の遊具は直す方向はあるのか。

(三セク職員)

優先順位をつけると、コテージ、ホテルとなるが、使っていない施設の撤去などを考えている。

(委員)

他のホテル等のこういったことを情報収集しているのか。

	<p><b>(三セク職員)</b>  以前他のホテルで働いていたが、そこでやっていた、ここでやっていないことをやった。積極的に他の施設のかたと交流する機会に参加し情報交換等、県外へのキャラバンでの売り込みや、県、市でやっている事業に積極的に参加し、外から情報、エージェントからの要望をひろってきて、活かせるところをどんどん活かすことをやってきた。来年度以降は外部講師を入れて研修を積極的にやって、雰囲気が変わったなどいわれる施設を目指していく。</p> <p><b>(事務局)</b>  それではこれで終了する。</p>
<p>その他必要事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設見学は公開である。</li> <li>・他の視察者 なし</li> </ul>